繪本清水の池

下

特別
へ4
8200
3

N4
8200
3

そうて物いはくろうどのざしきあるのまくなかるこそて入るまえしくらじるうとく器のや
いろう姫まにぎうえんはうり作り遊するいえ新もえんぶ新一紙ずれいつみとくる
しいろうのこ世かうん想で て紙吉利ろいは考るの考ざうあり

年ゆきを
くらばを
ひとつ
こんぶ
すくるれ
ゆくもいぶ
よ末

京都いまの服俗にそでひてにのくさくに見こんやうにとぐし給よ新ぜんきこと
ゆ比比に見ひとこのひいきそろせ古人のいろ服のそでろへいさ身のつさいかりとしろ

紙法と国ぐれ盗賊頭巾の紙やわらんゆうで
うるいろ紙あるい用ふくんごかるべ

ゆくさきの
きてくさき
人の
家へも
かどで
をしく
門へ入ぞ

人の家へ入るに必数珠をもつて出て礼なりて不敬出入て仏法さまたこいづくろ巳
て入ぞ言はふ一ちわきまえて行給れるんでどこ歩くまも方法又居宴の間後しあ良び礼記云
門ふんしてい数必わぐるもんをいはちんぐろやとえぐ戸かいとの辰ありて門におめせざる所いつぐとも

礼なれ
人へ
ふるを
人やをひて
ちぐわ
すれ

礼とは一ぐうものいろけごものこれうり人のろいい礼義を吹くたてうり人をて礼義なれい
人面獣心にて形い人のて心いろけごものなりり吹くのごれものをきれてこうぶひうに人ろ
けごものを面て礼義と見ろ小学せんうれてるなりうぞ

うけ
ゆめ
ごとして
人を
ゆるぐれば
ねも
うち
ふ
我ぞ
ゆるる

いかきあとにぐるまの乃口へも三度ゆびをいれ
ぐるぐるまわらせてあわびをうるゆめをみるとぞ
うけとりてそのうわさをしりつて恥とく

をいふまと
みるいさうしの
墓ぐれて
みしおして
常ふ
しるり

なんぢれい家奥ぐれくらいて一度の奥とうふ
出てざしの実くもてけんくを伝て都て奥さひろりの也ぬ毎るしづ一生涯の
行ゆも戦言ぐれさひりお戦初ぐれもえるうはまとらいてさうくいまりやうう

児法師尼や女の辞ぐらい人をぐを見ぐれしこと

児女の尼とゞ法師ゞやうに立居をつゝとしわるゝ
ていれ家と乳しわるとしあるゝ所たくきれ
恵恋の姿をかくす辞ていれわるゝ合わるゝ

酒を強ていかれと乳しいつほどきまるもしてと人に乳癒ていと
きをと乳ら伝説でいさか家藏と乳ら出くてけ
くちら図を乳い家とゞら事の見雑乳ら乳ぬ中ふのゞー

かぎりなく
いふ
こゝ
ろを
おりて
こゝ
ろに
そんで
却
なんぢ
なく
する

それ腹の立つる元を作るあるいは行ひ出すべきすじ心の内をいうべき義をいうまづ善事をいうべき事をいうべき義をいうべきすじ心の内をいうべきすじ

世のふぐりをいとひ心をはぶくせんとて子人は人倫をこそれとよろこばしかるに人は人倫をこそれとよろこばしかるに

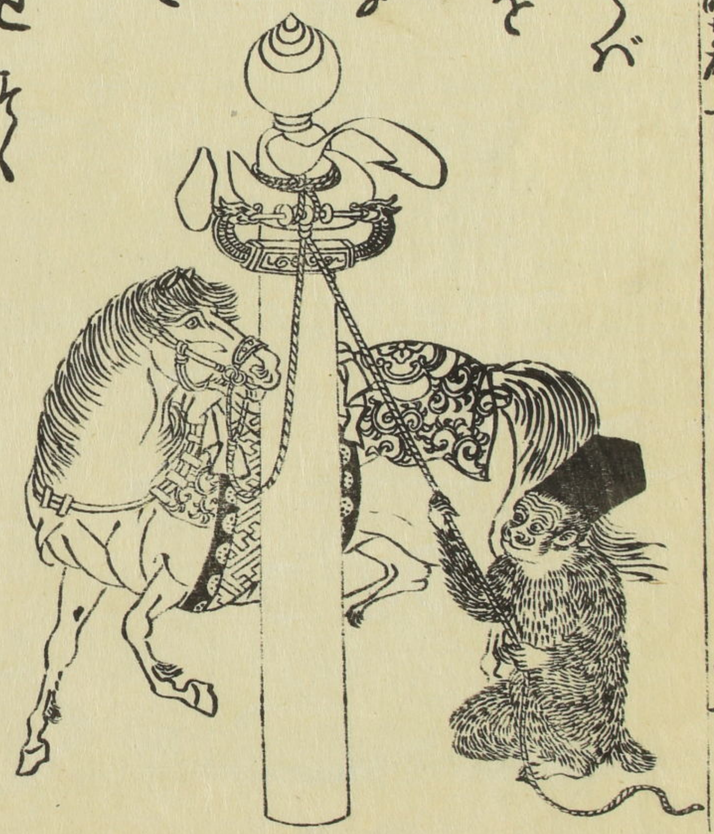
おくい者より隠遁者の行ひをこそれとこそれもそれは小笑小智の人れをこそれ

人は市場をこそれて市人は中にまぢりこの人隠士者の

ぐどころにそれぐもろまでその胸中にこそれ

さるぐこそれとこそれ人欲のさかりこそれ

あるがごとく
そこなひ
いとど
そこなひ
人は
みなの
おく

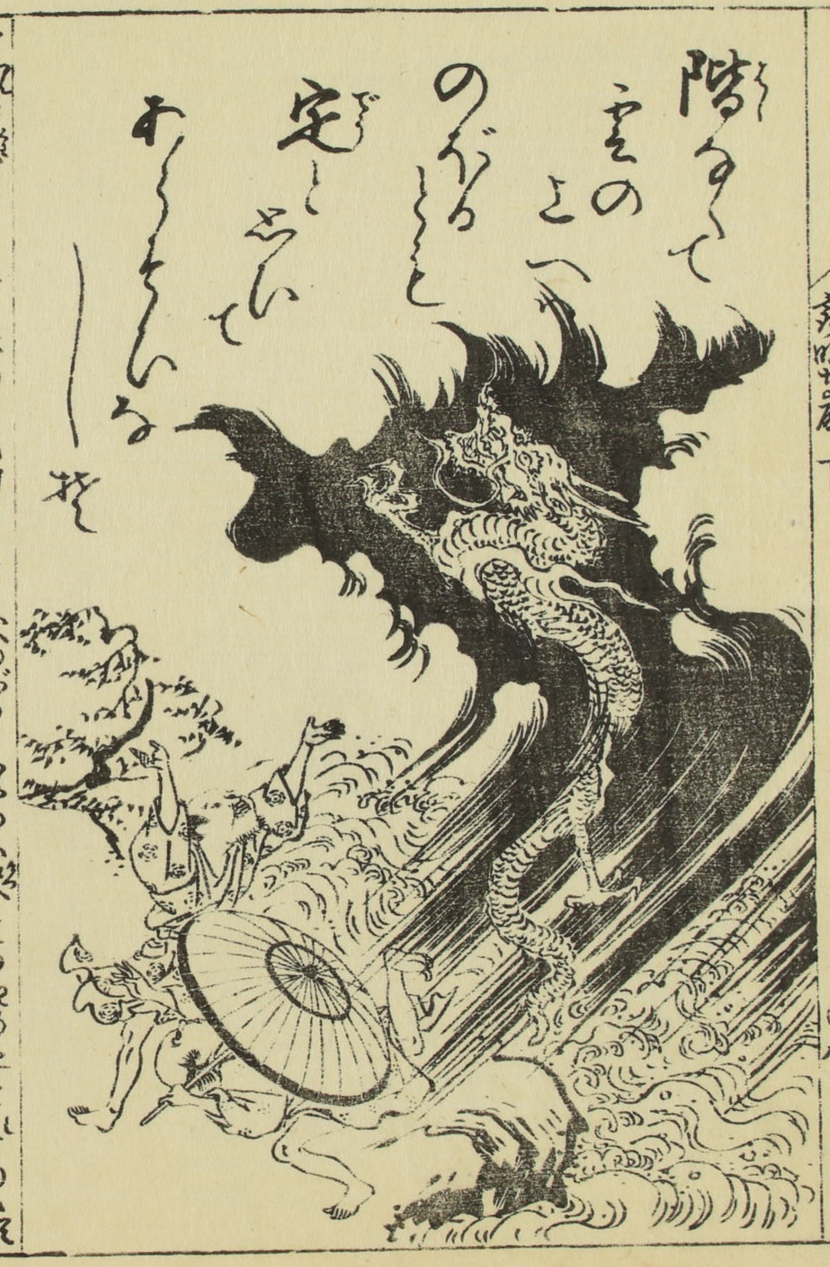


ふ
ち
べ
の
物を
まうぜる
ものの
ちからと
うれし
まうせる

びあいおいたるうりの勇さ我をは国の名ぶせやうしばゆ
人ををばうするといけいざる義をちからさわべ正徳けいふうと云ひんとう義を成やめ
物ふとこうりていをを用べ[illegible]は物の事もまさしそむくまつりごとを物語事うるべ
程るを廓紙くして大公物オく物れ[illegible]

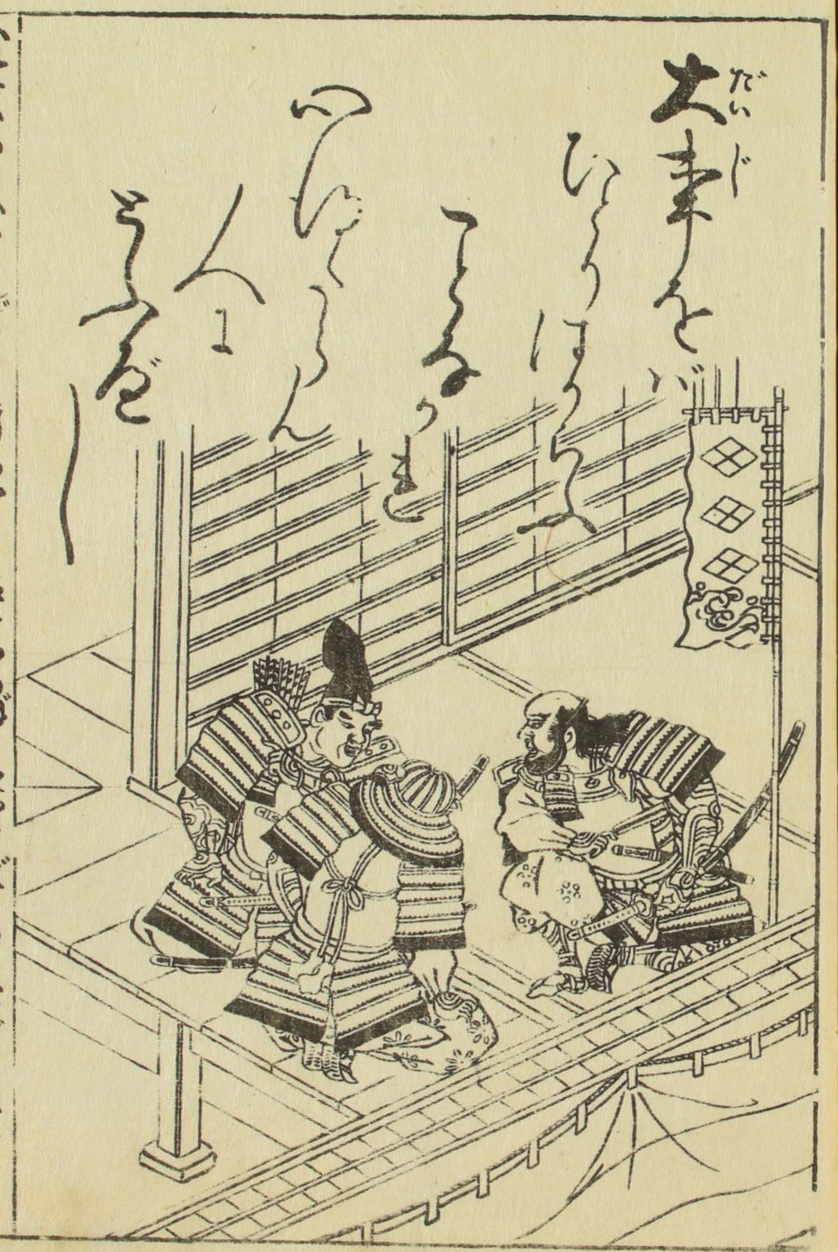
ふ
ち
べ
の
ちからと
うれし
くれの
いさ
ましう
人の
せ中

人間世界ののさう西いざましの天れでしいざましのそといけ六月の夏とつ八月十五夜のいい
定番酒かりんどう十六義ちうえや中るも人るのの月れ人るのようすば
世ちうふおごるのいえ人ちがれ化を志をいえつべうに敬さいりのまうにとべうにば



陽すて
主の
とへ
のがる
こと
定しらい
て
ものもいる
しかた

千変万化して変ずる世のうひけすて天へのがるとしてもそれ
不定なる人間界のさとりなれかりうるもそくいまそうも
思ひ情こりてかくこれそしすりいるのせそれゆゑ也智ある人いつもてくるなのこそり



大事をい
ひうけて
こるうま
ひとりん
人こ
そうだ

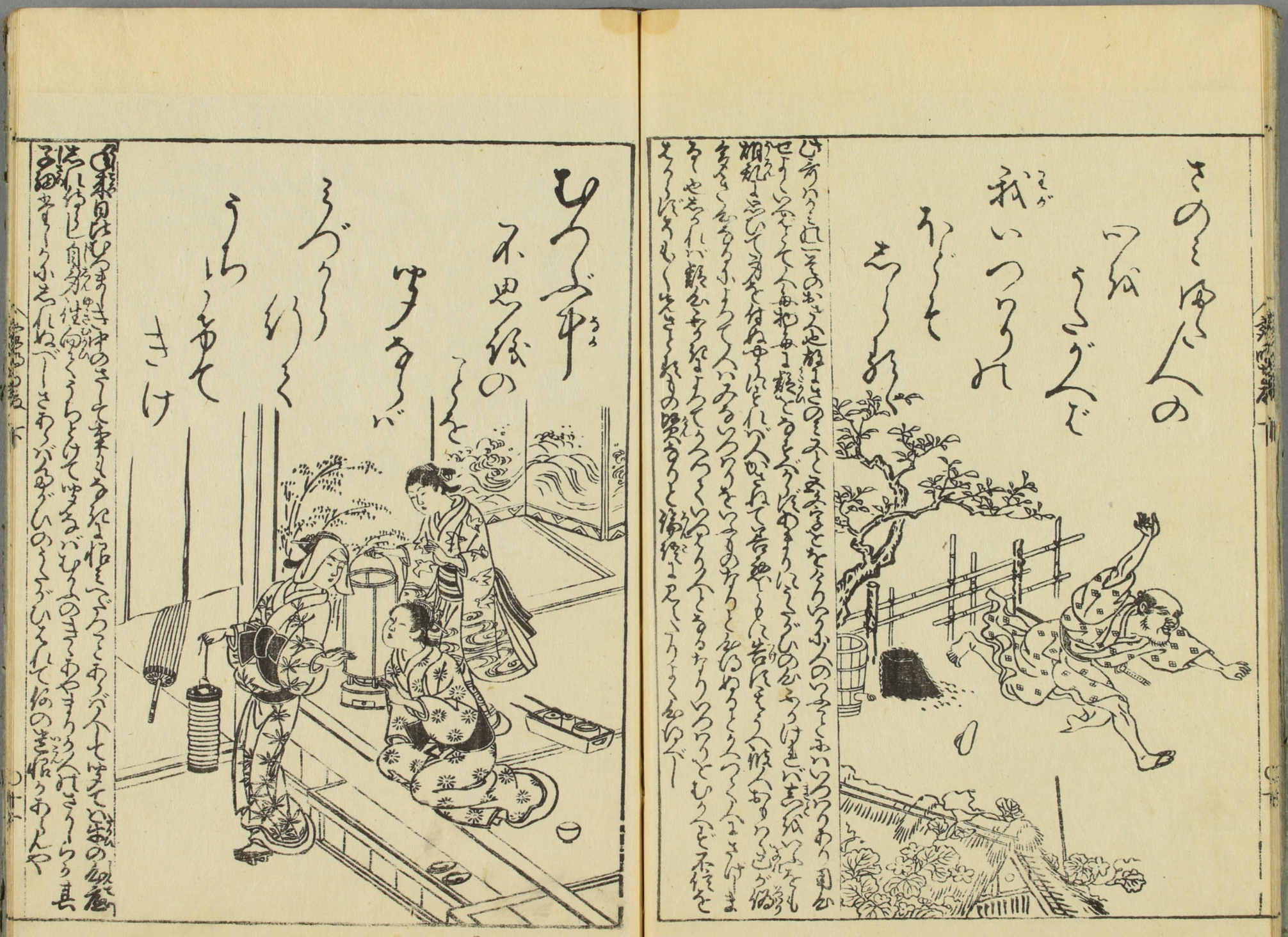
小事いかくんちんごろ分ありてくおてりうばそいてうばそのくあざるいやとし
大るにはあそい我一分の分作て定べりびぐ愛智老功のくんめいこうて考えこうか
ぐべきくいていて勝くも後合こいうくん智者一人より弟子三人ともいうう

まのあたり
つゆ
ふの
人をそ
ぐ
るそ
しろ
ゝれ
ものなり

つゆ　ゆらひ也　ふの　氣に入ぬ　ぐる　ぐるまとなりて一ぢいゆくとする　しろ　尾
ものなり　人の氣に入ぬ若き利害の事かも
ものなり　人の氣に入ぬ若き利害の事かも

人のうす
我に
ひいて
ゆく人を
ちらと
ひろて
人をうん

人のくいさ我おいていひそ〳〵ふるのいちまけの
らびさのるの花ゐに物おそ人をまちをるの



さのゝゆたんの
つれ
うさぐんど
我いつうれ
ゆゝと
さつゝあり

ひ方いうこれ一そのおさんも加ゝさのゝえて
せよしいなどて人あわあこ様どうるとぐうびめうりにてぐいのむうけまじまぶいをもも
相乗さいて方を自ぬ中はをれじ人ひれて若ゝもう人ぬうりぐ偽
ゝゝこゝもうふうて人いみるうりをうものうとゝ乳ぬうとうつくんさけま
うゝもうれい様ゝ乳ゝなうりうくいうゝとうるうりうとむうど不ゝを
ゝうびうもゝゝさゝれうの喫うと偽ゝこてゝうゝゝ乳ひぐ

ひうぐ中
不思議の
ゝを
男をゝば
うぐうゝ
行くゝ
うゝ中て
きけ

自然貝は山のまき中のさて来ゝ物ゝ
ゝ行ゝ自然貝は山のくうちとりて
ゝ中ゝうふゝれぬぐーさあゝばゆぐいのゝぐいそれて伽のゝ話ゝあんや

人のつまらぬ仲もまた戒の内に入て深きいましめ
[illegible]いろいろの人をほよいそこもふそのつまらぬ仲もまた戒の内に入て深きいましめ
[illegible]ろいろの人をそこもふいかにもいろいろ[illegible]
[illegible]ろいろ[illegible]

人のぶ[illegible]といふのつまらぬ仲もまた戒の内に入て深きいましめ
[illegible]
[illegible]

人のおかどうろうやすものいなり今日い若と俗さ明日い悪と称て
今日い若と俗と悪人といえんとすれば悪行をこと人とすれば若事と称とる
明日こと若悪人に成宮ものし仏化も若行をえて悪行多民て
若かさい悪人ばかり世の人は曲とさそ悪人ばかりなるとすれば
あやまりて悪をすれば世のいかりいるるのあれば悪人ばかりなり

仏の事も
用あるうんと
ちいさい
ちるるく
人を
なんぞべうべ

人のおかどうろうやすものいなり今日い若と俗さ明日い悪と称て
今日い若と俗と悪人といえんとすれば悪行をこと人とすれば若事と称とる
明日こと若悪人に成宮ものし仏化も若行をえて悪行多民て
若かさい悪人ばかり世の人は曲とさそ悪人ばかりなるとすれば
あやまりて悪をすれば世のいかりいるるのあれば悪人ばかりなり

禍の門を
口ぞ
いわく
あくまで
さとしく
用心せよ

つねづねいかなる禍ありとも和しづかに行ふべき行ひ禍をのがれまもりてその身をはしりとく紙ちらに古人の云ひい禍の門を結いわざりいろ根くさ病いにようス禍いにしるむ云吉三すのさへはりいてみ人の身を果てしもいろ情もべしく

父母の
いとうの
えし
うしなく
身を
あぶにあと
人ぶ
ろるさ

人の親のうとそそぐるを辛苦中くこの苦しいのがてく苦しいも知てしこと大地
こうてうの方の苦困ちたにもりとじく地なこうるを
常にしおしんぼし　竜ゆうずそこうひやでびけがこたにくるりやど金く保つを考ゑくそ
苦子こ三月ハ人母のき体也ち母ハ生体と知ってあて弱せざんや考位ち身体髪膚之母
にあめて毀傷ざるハ孝の初うとと知るにそこ身をそさんけうこえたのうり屋をけうて
身をわやくしそこうひやづうれ苦困ちたにて身をけじ武い孝ふれ入りやさいうれ也

貪欲い
この世も
人を
賺し
怪の世い
なるこそ

きんらくこいの義をいとしれて以ぬく子
の心をもと小人悪人とつ徒の罪深いは貪欲とかるすぢごくにおちんとの賺の道べうす

悪無仏い
この世も
人を
怪の世い
仏こそ
なれ

悪いおこないをなすものは賺して小欲をまぎらかしまぎれ成仏せいそたかんまして
徒人はおのおのつとめをなすべし

情をば
人のかたと
なるよ

はなる
るをば
無ふ
ものと
なるを

人を殺するものをば人つゝこれを殺すこゝろ
なるべしなるものいきんだるもいろ〳〵
小あのはなるを是をはなるるものいきんだるこゝろ

上をば
まもれば
つ
物をう
みだんとする
人のなるれ

上もなきまもいきんだるこゝろの手をどりて仏
くしいたるまで思ひ其僕婢なるわらはのかしこ
天下をおのこまの夢也人のかたりぬ〳〵ふ
明不測なるいたつて奇しれ是夢とらいつべし
武士の主ぬ武士なるべしてなれなるこゝろ

善人を
うれど
我身も
人ぐるまに
乗
鏡
もち
ながらこそ
すれ

人おのれがのぐるまにてこれをうるに我身の
うめをもちてこれをうるにどもぐるまにてそこれをうるに善人君子はいかんの
ぜうずや

善人
ひつぢくも
まく
いろり
麻の中
すれ
あさと
ふるふ
義

ひ奇百首の詩に依て麻の中なる蓬の方をうけて清らかなるを善人とし曲がりくねる者のつ
よくうるものといへども海の魚の塩に染まれば風情なくて度々人に見られて
自暴自棄なるものなり蓬の中の四面あり陽ぶの世を禁紂あり孔子の陽貨篇悪女忌

卵孟子の子教ふ毛ゐりかくのごとく人い麻中の蓬ハ麻中の麻乃都て夢ゐるかぎ〜ハ下ゐ今の拙ゐの恥ぢさの毒さゐりいろゐろ人ゐ人も若のもくぶふ〜さ恵の毒ぢ〜ハ為て毒ぢゐふいわ〜ぢ多ぢその為ゐ毒ゐ
ゐても及ぶべきあ〜ゐあ〜ぢと我と為をすて不義不屋を止ぢ見他人のもゐ恥するれ及ぶべきゐ為ゐ敬ゐ為ゐ為ゐ〜と我と為ゐ志をもぢ〜ゐ毒をねこゐねゐ毒をこのむぢ〜ゐ
ゐ〜ゐ毒ゐ〜ぶ徳ゐ〜ゐ〜ゐ〜

M217
新
15

画本倭比事　全十冊　西川祐信
謡曲畫誌　全十冊　楢書國筆
画本秘事袋　全七冊　西川祐信
御伽繪本採　全十冊
繪本後撰仲　全三冊　西川祐信
同　後扁　頃衣仲　右同
同　小松原　全二冊　西川祐信
同　淺香山　全一冊　西川祐信
同　双の岡　右同
東海道名所圖會　全六冊　寄合書
伊勢参宮名所圖會　全八冊　關月

繪本元名盃　全部二冊　下河辺拾水
同　忠孝名代記　右同
同　義経後追　右同
同　頼光昔話　右同
同　朝日鑑　全二冊　春亭旅代
同　高名板　全二冊　西川祐信
同　女中風俗土産　右同
同　雛遊　右同
同　玉かづら　右同
同　花くらべ　右同
同　家の梅　右同
同　付津風　右同

繪本玉椿　全二冊　西川祐信
同　西美花　右同
同　花見雪　右同
同　海士草　全二冊　西川祐信
同　落紅梅　右同
同　極楽めぐり　全二冊　下河辺拾水
同　太平武勇大全　全五冊
画本必用　全三冊
同　圖貨　右同
同　平家　歌會福美鳥等　全三冊